



一の組保育誌 (つゝき)

ふみ子

一家庭に對する關係

家庭は中流の上以上のものにして官吏あり、會社員あり、商人あり、富豪家あり、華族あり、教育家あり、宗教家あり、開業醫あり、軍人あり、種々なるがこれ等家庭の兒は概して入園前は家庭内

にありて兄弟姉妹と遊ぶほか他に友を有せざるもの多し。故に中流以下の社會の開放されたる家庭に生長せるもの、如く入園前已に社會の關係を受くるもの稀にして、單に家庭の影響を受くるもの多し。家庭の良否が此等幼兒に影響を及ぼせることの大なること今更茲に記し置く必要なし。されどこの組幼兒を保育すること茲に三年(一部分の兒は二年)漸次に幼兒を知り家庭を知ること深く、次で兩者の關係を知る度の進むに従ひて益々其影響の大なるを知る。

組中の男兒▲▲○○が誠實にして堅急不拔の氣象に富めるが如き、ひとへに家庭の賜物なり。會て此の兒の父は返書用にとて一枚の端書をいれたる一書を送られたり。(當時母なる人は病床にあり)其文には「余は○○に向つて本日より幼稚園

にてかくくすべしと命じ置きたり、而して兒は歸宅後命の如くしたりと語る、實行の點いかに御知せを願ふとあり、尙事は些細なれども家庭にて不承知のため、兒に偽を通さず様のことわりては不都合ゆゑ御返書を煩はしたしとありき。あゝ其注意の至れる感ずべきなり其他は推して何ふを得べし。○が衆にすぐれたる品性を有するも故なきにわらず。尙父なる人は陸軍に職を奉じ、刻苦勉勵其の結果遂に有益なる發明をせられし人、非常に繁忙なる生活をせらるゝ人ととき、而して兒の教育に注意せらるゝこと斯くの如し。

これに類する家庭尙三あり。
又反對に叱ることこれ即ち教育、子供を導くには單に口やかましく叱るといふ一法あるのみといふ様に考へ居る家庭二あり、これ等家庭の兒は非常

に廉恥心に乏しくしてすなをならず、天稟上其他いろくの欠點をも有せり。幸に屢々其母と語る機會を得たるをもつて、其都度折を見ては、幼稚園にこの取扱方はかくくなり、絶えず子供を監視して叱りつくるは効なくして害ありと語り、少しはわが意を解されしかと思ふ折もありしが、歸りには同じく「ど一ぞよろしく願ひますどうぞ澤山お叱り下さいまし」との挨拶にて實に失望なりかくて遂に三年を経過し目的を達し得ざりき。この言葉は只習慣上より來りたる一の挨拶なるか、はた我が話し方の拙なるが爲わが意を解されざるためか、其のいづれなるかは明ならざれども思ふに後者に屬するが如し。二の中一つは轉學前半年のころに至りて漸く實驗上ざとられしが如しといへども、他の一つは依然として元の如し。

又華族及富豪家の家庭にて子供の教育は思想の比較的進歩せざる老女、婦人等召使の手にありて凡ての思想幼稚園と大差ありしもの四五あり、左は何れも三の組二の組時代のことなれども一二の例をいへば或る兒は爪を長く生し居をもつて「今日お家にいらつしたらとつておもらひなさい」といへば「先生今日は何の日でございますか」といふ「先生は何の日か存じませんよ」といへば私の家ではばあや(老女の名をいふ)がたつの日でなければとつてはいけませんと申します」といふ。又ある附添(これは子供の教育の全權を有せるもの)は「先生に御話し申したうございませす」といふをもつて何事ならんかと聞けば「△△様は幼稚園ではあんなにかとなしくつていらつしやいますけれどお家におかへりになりませすと少しも私の申すこ

となどはおさし遊ばしませんで困ります」といふ。少し不審に思ひてどんな時にお聞きになりませんかと尋ぬれば附添の答は左の如し「御自分でお膳部をお運び遊ばしたり、靴着をお獨りでむしつてあがるとおつしやつたり、あれこれと其の邊の世話を遊ばして少しもかとなしくしていらつしやいません。いくら申しあげてもおさしになりません」余はこの言葉を聞きて半はよろこぶと同時に却て兒のために氣の毒に思ひたり。凡て此の種の家庭の兒は常に多くの召使にかしづかるゝをもつて依頼心の強きもの普通なり。故にこれを矯正し自ら活(はたら)きやつけたしとの希望にて幼稚園にては幼兒自身にてなし得る限りは自らなさしめんととの考にて食事の際辨當の始末のごときは已に三の組時代より出來得ること丈はなさしめ又恩物、玩具の

整理室内の整頓のごときも力相當に助けしめたるなり。△△子が家庭に於ける行爲は恐らくは幼稚園保育の結果なるべし。かくのごとき思想の衝突は子供のため甚だ不幸なるをもつて互に家風を語り幼稚園の保育法をかたりて漸次改むるを得たり。従て一の組に至りて以來は斯くのごときことを耳にしたること稀なり。又これ等家庭の兒は概して氣力に乏しく、同情心に乏しく、我儘にして物品を濫費する習慣あり、これ等の欠點は兒等が幼稚園保育をうけしために自然に矯正されし點少なからず、尙一のよるこぶべきことはこれ等家庭の父母が漸次に自分の子供の教育に注意せるに至りしことなり。以前は教育は全く附添人に托し置きて父母は全く放任せるもの多く、懇話會の時の如きはいつても代理人を送るを例とせしが、漸次に夫人

自ら來會し其他時々參觀に來たるに至れり。

以上の外三十余のものは、官吏、實業家、教育家等本園幼児普通の家庭なり、此種のものありては立派なる父母を有するにもかゝらず比較的其影響を受くること少く、却て善惡共に召使人の影響を受けつゝあること多きを見る。

何れの種類の家庭を問はず、幼稚園との連絡をたもとんとの考は大に進み來りしものゝ如く、たんに幼稚園にては大に便利を得たり。

女子高等師範學校附屬幼稚園

分室

女子高等師範學校附屬幼稚園に分室といふが有り今之を此誌上に紹介するに當り、まづ一昨明治三十五年末此園に於て定めたる保育要項中の組織の